

# 東山の森だより

発行：なごや東山の  
森づくりの会  
発行者：滝川 正子  
編集：中西 たかお  
発行月：2004年6月  
(年2回発行)

【第1号】

## § § 豊かな里山を次世代へ § §

なごや東山の森づくりの会代表 滝川正子

鳥が棲み、蝶が舞い、落葉敷く雑木林を子どもたちに残したい。大人たちにも、四季の光、影、風であふれ、安らぎに充ちた雑木林を残したい。そんな思いで始まった森づくりです。里山は、私たち人間を含む生き物のかけがえない拠り所であることを忘れていた歴史は、ここ4、50年だけでした。1950年代を境に都市が発展、成長しました。そして、都市の拡大は身近な自然との共存と対立し、全国で自然保護運動が起きました。また、燃料革命、生活様式や農業の近代化などで里山は暮らしの中から急速に忘れ去られ、荒廃していきました。

一方では、自然保護運動の帰結として野生生物の保護が叫ばれ、国をはじめ自治体、組織は野生生物のレッドデータリストを作成し、提案がされました。1980年代に入り、ようやく原風景の里山が語られ、学問的には保全生態学や近自然工法が話題になり、注目されるようになりました。

里山は、人によって伐採や間伐、草刈り、落葉掻き、水路などの管理がされて維持されてきた二次的な自然であり、手を入れてこそ残る自然、換言すればそれまでの自然保護運動の見直しでもあります。

また、人は里山と共に生きる技術や知恵で暮らしを支え、文化を育んできました。この豊かな文化は伝えなければなりません。そして、森づくりに関わりながら、人も自然の一部であることを知り、人類はどこから来て、どこへ行こうとしているかを問い続けていきたい。



### 協働組織「なごや東山の森づくりの会」 設立趣意書

東山の森、約410haは動植物園を含む東山公園と平和公園からなる、都市の中に残された貴重な緑の里山です。今でも春にはウグイスが鳴き、夏にはカブトムシが棲む豊かな森ですが、かつてはハッチョウトンボが舞い、キツネが子育てをし、ノウサギが跳ねる、そして人々の暮らしと密接に関わっていた、もっともっと豊かな里山でした。

20世紀、都市化の進展とともに里山は減少し、徐々に荒廃していきました。21世紀を迎えた今、私たちは、これまでの効率性至上の都市づくりやライフスタイルを反省し、森が与えてくれる生命感や安らぎ、さらに、都市の環境改善や防災の機能、エネルギー資源の可能性にも気づかされたのです。

私たち協働組織は、東山の森に棲む多くの生き物とともにあることを大切にし、東山動植物園とも連携しながら、市民・NPO・企業・行政の協働による森づくりをおこないます。

そして、この森づくりを通じて、人と自然との共生の視点を育み、次世代を担う子どもたちに貴重な自然環境と森の素晴らしさを伝えていきます。

## 設立総会

日 時：2004年2月1日（日）午後1時より  
場 所：名古屋大学 環境総合館1階レクチャーホール  
参加者：144名（会員登録＝137名、総会参加のみ＝7名）  
内 容：総合司会 長谷川明子氏

- ①森づくり基本構想策定の経緯説明 浅井正明氏（緑化推進課課長）
- ②基調講演「パートナーシップの森づくり」 林 進氏（岐阜大学名誉教授）
- ③設立総会：会則、事業計画、予算案及び役員選出の  
それぞれの議案について準備会から説明があり、  
参加者と討議の上、採択された。  
これにより「なごや東山の森づくりの会」が発足。  
会の代表として承認された滝川正子氏があいさつ。



### ④パネルディスカッション

「みんなで始めよう なごや東山の森づくり」  
コーディネーター 岸田眞代氏  
パネラー 有賀隆氏 滝川正子氏 佐藤久美氏 猪俣佳江氏

2004年(平成16年)2月2日(月曜日) 中日新聞

## 東山保全へ行政と協働 『森づくりの会』始動 設立総会でパネル討論

名古屋市東部の東山公園と平和公園一帯に広がる「東山の森」（約四百畝）の保全や自然との触れ合いなどを目的にした「なごや東山の森づくりの会」の設立総会が一日、会員約百四十人が出席して千種区の名古屋環境総合館で開かれ、会則や本年度事業計画などを決めた。

東山の森の保全をめぐっては、二〇〇〇年から市民や行政などが一体となって現地調査や研究会などを展開。昨年七月に「人と自然の生命（い

）の輝く東山の森づくり」を基本理念に掲げる基本構想を策定し、「森を守り育てる」「森とかわる」など三つの基本方針を打ち出している。

森づくりの会は、基本構想を軸に名古屋市と協働しながら活動を繰り広げていく。初年度は、発足イベントとして四月四日の自然観察会とごみ拾いを皮切りに、雑木の復元、散策案内マップの発行、クスもみづくり体験などを実施する。

設立総会に続いてパネルディスカッションがあり、名大環境学研究所の有賀隆助教授が「五十年、百年の活動にしていくには、人が変わっていかなくてはならない」とも続けられる仕組みづくりが求められているなどと述べた。会の問い合わせは名古屋市長緑化推進課（電話 2493 〓へ）。（前田 智）

## 活動報告

### 「なごや東山の森づくりの会」 発足イベント

平和公園南部の自然観察とゴミ拾い

日 時：2004年4月4日（日）9：30～15：00  
集 合：平和公園入り口（旧清風荘前） 天 候：雨  
参加者：81名（会員 67名 一般 14名）  
内 容：参加者を6班に分け、予め決められたコースに分かれて、リーダーの先導で自然観察を楽しみながら、その一方でゴミ拾いをしました。雨の森もそれなりの風情があつていいものですが、



出発前に渡されたゴミ袋に、拾い集めたゴミを一杯にしての散策は大変なものでした。

昼食後の休憩時間には、当会顧問の林 進先生より「さくらに寄せて」と題して楽しい講義を受けました。  
集めたゴミの量： 軽トラックに約11杯分

（内、参加者が拾い集めたもの85袋）

自転車やバイクなどは地図にマーキングし、後日回収。





## 5月定例会

2004年5月2日(日) 10:00~15:00

集合: スカイトワー駐車場入口 天候: 晴

活動場所: 一粒荘跡地(東山スカイトワー東側下斜面)

参加者: 51名(内子ども2名)

活動内容: 活動エリアを3ヶ所設定し、参加者を3班に分けて、

それぞれのエリアで、枯れ木や竹を整理するための集積場所

づくりや別荘として使われていた場所へ侵入してきている竹の除伐、落ち葉掻きなどを

行いました。昼の休憩では、除伐した竹を利用してクラフト教室を開き、竹とんぼ、ペーパーナイフ、花器などを作って楽しみました。



## 環境デーなごや 協賛イベント

2004年6月5日(土) 10:00~15:00

場所: 東山公園 一粒荘跡地(東山タワー東側)

天候: 晴 参加者: 32名(内子ども6名)

開催挨拶: 市環境局 坂口主査、滝川代表

竹のはなし: 真弓浩二さん 竹の種類や成長過程と除伐作業での注意事項など。

活動内容: おじいさんと孫、父母と子など雑木林の復元に、竹を伐ったり落ち葉掻きをしたり、、、

昼の休憩時間は、有馬さんの竹クラフトが好評でした。

滝川さん一粒荘にまつわる話も興味深く聞きました。



## 6月定例会

2004年6月6日(日) 10:00~15:00

場所: 平和公園 ハンノキ湿地北側竹林

天候: 雨 参加者: 30名(内子ども1名)

どうしたことかこの活動はいつも雨。参加者は覚悟の上。

装備万端で作業開始。本来田畑であったところが竹に占領されていましたが、皆さんの働きで明るく解放的なエリアになりました。どんな植物が育ってくれるのか楽しみです。



## 運営委員会

2004年2月19日(木) 18:30~ 千種スポーツセンター第一会議室にて第1回運営委員会を開催。以後、原則として毎月第3木曜日(時間、場所同上)に開催します。6月までに5回行われ、主な議題は、定例会及びその他催事の企画と結果の報告、事業計画の具体案検討などでした。

## その他の活動

上下流交流「木曽川さんありがとう」(名古屋市上下水道局主催)

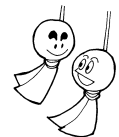
2004年5月29日(土) 参加: 5名

私たちの生活に欠かせない水源である木曽川の源流にある長野県木祖村の皆さんとの交流です。水豊かな木曽川を守り育てるための森づくりでは、名古屋市民が里親になって育てたドングリの植樹。また木曽川最上流に位置する「味噌川ダム」見学もあり、あらためて森の大切さ、水の大切さを知った一日でした。(鬼頭)

日本造園学会

2004年5月22日~24日 パネル展示参加

静岡文化芸術大学ならびにアクトシティ浜松研修交流センターへ展示。



## 森づくりに寄せて

「謙虚に“森の時間”に学び、愛情を持って森に接する」

森づくりの活動を通じて、今まで知らなかったことを自らの目で確かめ、学ぶことができます。「森の時間」に学び、愛情を持って森に接する。森の時間と人間の時間は違います。森の時間に合わせていきましょう。みなさんは明日の子どもたちにどんな森を贈りたいですか？ 100年の森、200年の森。若齢の森は早く成長しますが、ある程度の形ができてからの時間が長いです。そして森にはいろんな色があります。森の様々な色合いは人の多様性を表していると思います。そういった森に合わせた人間関係をつくっていくことを志の中に入れておくことが大切だと思います。

岐阜大学名誉教授 林 進

「東山の森だより」の発刊、おめでとうございます。

市民の皆さんからのご提案により動きはじめた東山の森づくりも、昨年の基本構想の策定を経て、2月の「なごや東山の森づくりの会」の発足、4月の発足イベントの開催と、とうとう本格的な活動が始まりました。

本市ではパートナーシップによる森づくりを進めていますが、東山の森は、そのひとつの核となる場所だと考えています。市民・企業・行政の協働で、東山の森づくりを進めていきましょう。

この「東山の森だより」が、会員の皆さん相互の交流の場となり、森づくりの会が一層発展することを祈念し、御祝いの言葉に代えたいと思います。

名古屋市緑政土木局緑地部緑化推進課長 森尾 正嗣

「東山の森づくりだより」発刊おめでとうございます。私ども（財）名古屋市みどりの協会は、協働によるなごやの森づくりを広げるため、市民・企業・行政を結ぶ中間支援組織として活躍していきたいと考えています。「なごや東山の森づくり」は名古屋のシンボルとなり得る活動です。ワークショップや講習会、事務局機能サポートなどで森づくりの会を応援していく予定です。

どうぞよろしくお願いします。

（財）名古屋市みどりの協会普及部緑化普及課 安藤 有雄

「なごや東山の森づくり基本構想」以来、この森に関わり始めて5年。実に多くの森の仲間と出会い、共に額に汗し、熱い議論を交わしてきました。ようやく森づくりの会もスタートし、これからが本番です。森づくり市民の想いと力を糧に、ゆっくり、でも着実に、持続性のある活動に微力ながら貢献できればと思っています。

なごや東山の森づくりの会副代表 眞弓 浩二

## 森づくりへの想い

森への思いは多種・多彩。多くのいろいろな思いが集まると、イキイキとした多様な森が出来ます。人の関わりが森を育てます。

東山の森を市民の希望にするよう、小さな手入れから始めましょう。大勢で楽しく森づくりしましょう。

水野 一男



早春のハンノキ湿地

私は転勤族ですが、東山の森に魅せられ、6年前名古屋を永住の地としました。

東山の森は 名古屋市民にとり全国に誇れる自然豊かな森と思います。

これからも東山の森を、皆様共々豊かな森として守って行きたいと思います。

山下 紀雄



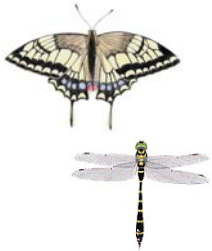
### 『森づくりは人づくり』

私が関わってきた多くの森づくりの場面で体験したことのなかで学んだ大切なことがあります。それは森づくりで一番大切なことは、森に対する知識や技術でなく、森に対する気持ちがある人を育てることです。人が森を育てるのです、そんな人が育つ森づくりの会にしたいですね。

篠田 陽作



東山公園南部での下草刈り



野外活動の様々なプログラムを子どもや大人に提供しています。参加するほとんどの人が市内にこんな素敵な場所があることを知りません。最初は硬い表情をしていた子どもたちが森に抱かれて、生き活きとした表情になっていく様子は、森が自然が先生であることをあらためて感じさせてくれます。

青山 裕子



平和公園の初夏（湿地）

子どもの頃、私の遊び場でもあった東山の森の北部、平和公園は、田畑が広がり、水田にはメダカが泳ぎ、もつともつと豊かな里山でした。あれから50年余りが経ち、荒廃したこの里山を訪れた時、あの頃の里山に戻したいとの想いが膨らんでいます。

鬼頭 保

現在は「東山の森」といっても、ほとんどの人が「どこの東山？」と言うのではないだろうか。

「なごや」とつけなくても、日本ばかりでなく、海外に知れ渡るような都会の中の森を目指して、森づくりに汗を流したい。

水野 泰平



平和公園の初夏（中道方面）

### 会員募集中！！

当会の活動趣旨にご賛同の方、人と自然の命輝く東山の森づくりに参加しませんか。

年会費： 1,000円

入会申込・問合せ先： 連絡監事 鬼頭 保まで。

Tel/Fax：052-751-9510 e-mail：kitou@sd.starcat.ne.jp

5月末現在会員数 175（個人：169 団体：5 企業：1）

## 森の表情

### 5月は東山の生き物の新しい門出の季節

滝田 久憲

東山の森では色々な樹木の開花や若葉の芽生えなどを見ることができるところから、4月から5月にかけてが生き物たちの最初の門出になります。雨の降る頻度が多くなる5月末から6月始めも生き物たちにとっては次の門出の季節となりますが、それは4月に開花していた樹木にはすでに実がつきはじめ、真打ちのネジキやアカメガシワなどが花を咲かせます。湿地ではトウカイコモウセンゴケの群落が赤色を一層際立たせ、ピンク色の小さな花を開花させます。また、水辺の動物ではトンボが羽化し、すでに縄張り争いを行い、先日まで水の中



ヒキガエルのオタマジャクシ

で泳いでいたヒキガエルのオタマジャクシが変態し、陸に上がり始めます。以前、雨の中、たくさんのヒキガエルが群をなして上陸する姿を見て、感激したのを覚えています。この季節、裏山ではササユリやイチヤクソウなども密かに花を咲かせ、散っていきます。4月の開花ラッシュと違ってあまり目立ちはしませんが、生命の息吹を感じる大切な時期です。

## 今後の活動予定

### 定例会（毎月第1日曜日）

- |       |        |          |
|-------|--------|----------|
| 7月4日  | 東山公園南部 | 天白溪湿地の復元 |
| 8月1日  | 平和公園   | 竹林づくり    |
| 9月5日  | 東山公園南部 |          |
| 10月3日 | 平和公園   | 竹林づくり    |
| 11月7日 | 東山公園南部 |          |
| 12月5日 | 平和公園   | 竹林づくり    |



天白溪湿地の復元作業

詳細につきましては、その都度事前にメールなどで連絡させていただきます。

また、会員研修会等その他催事につきましても、具体化の都度ご連絡致します。

### 定例会集合場所地図（8月以降）



東山公園南部 : 苗場  
地下鉄東山公園駅下車 徒歩約20分



平和公園 : 芝生広場  
地下鉄東山公園駅下車 徒歩約15分

### 編集後記

第1号ということで、あれもこれもと載せたいものが一杯で窮屈な紙面になりましたが、皆さんの森づくりへの想いを伝えられようと思います。森は毎日表情を変えます。そんな東山の森へ是非お出かけ下さい。原稿の依頼に快く応じて頂いた皆さんに、感謝申し上げます。

広報幹事 中西たかお Tel/Fax : 052-781-7530  
e-mail : ntakao33@titan.ocn.ne.jp

投稿歓迎  
森づくり、自然、  
環境への想い、  
会へのご意見など。  
左記広報幹事まで